

2025 年 12 月 64 号

エクレーシア

(編集人) 社会福祉法人サワリ

〒590-0811 大阪府堺市堺区南陵町 1-2-6

電話：072-280-0830 FAX:072-241-7772

ホームページ URL：http://www.sawari.or.jp

「サワリ感謝祭」について

金 永泰

地域の皆様や全国の皆様の後方支援に利用者さんとスタッフを代表して感謝申し上げます。

11月22日(土)に第9回「サワリ感謝祭」を開催いたしました。天候にも恵まれ、「そろそろだと思って、前を通っていました。」とのお声掛けもいただくなど例年にも増して大阪府内のご来場者様、地域の裾の広がりを感じさせるご来場者様があり盛況なイベントになり嬉しいばかりです。

チラシの配布など開催に向けた準備、当日、撤収のすべての作業に、利用者さんそれぞれが、それぞれのペースで取り組むことを自己決定し、自分を大切にすることを中心にしながら全員参加していました。一年を通じて作った日頃の取り組みの成果となる数々の授産品（皆様からご寄付いただいた着物をリメイクした製品）の販売、さらに、今年は初めて、二胡の演奏、チーム対抗歌合戦を皆様に聞いていただきました。温かい拍手をありがとうございました。また、今年も去年に引き続きご協力をいただき、社会福祉法人ユウの家様のパン・シフォンケーキの販売、瀬戸様の無農薬野菜、株式会社海龍様のキムチ・韓国海苔をご協賛いただき販売をしました。大人だけではなく、子供たちも楽しめるように“魚釣り”に因んで“お菓子釣り”を企画し、また、古墳型チヂミ・カレーライス・コーヒーが安く提供されて美味しく頂いてもらえたと感じています。利用者さんのご家族様との交流も生まれ、利用者さんとスタッフとボランティアさんの“協力”と“互助”が明確になったイベントでもありました。

最後になりましたが、利用者さんとスタッフとボランティアさん、そして、全国のエクレーシア愛読者一人一人のうえにとこしえにかかわらぬ安らぎと平安があらんことを祈ります。

シャローム

フードを被った猫

神童 工

第3話

時は経ち、ベルギーの船着き場で貨物船から降り立った二匹の猫は、次なる仲間を探す事にした。勿論猫限定で。

そんな折、とあるベルギーの片隅において、ある事件が起きていた。

それは、シャム猫同士の抗争だった。ボス同士のこの抗争、今に始まった事ではなく、数年前から睨(にら)み合いが続いて、今回に至る。

シャム猫の一方のボスの名前をミスラと呼び、もう一方のボスは、アフラ・マズダーと名付けられ、アフラ・マズダーは隻眼(せきがん)の猫で眼帯を右目にしていた。

この2匹のシャム猫のボスは、ささいな事が引鉄となり、抗争にまで発展してしまった。

それは、牛肉と鶏肉のどちらが美味しいかというしょうもない事だった。ミスラは牛肉が美味しい、牛肉の方が味が上だと言い、頑としてゆずらなく、一方のアフラ・マズダーは鶏肉が最も肉の中で美味しいと言い張った。

この二匹の猫(ボス猫)の意地の張り合いによって、抗争にまで発展してしまった。正直、至極どうでも良いことがきっかけでだ。

だが、それが二匹の中では重要な問題なのだった。たかが肉、されど肉なのである。

結局、この抗争を制したのは、鶏肉主義のアフラ・マズダーに成った。勝因は、やはり彼のカリスマ性による所が大きかった。

戦は数だと言われるが、彼の勢力の数は、ミスラの軍団の倍はあった。(2倍の数)

アフラ・マズダーには、カリスマ性による人を魅了する力があつた。とは前述したが、それもその筈(はず)で、彼は、徳治による感化を目指して日々、努力していたから、自然と他猫(たびょう)の信望を勝ち取れていた為だ。要するに、猫間性(びょうげんせい)で勝ったようなものだ。

そして、この猫の勝利者が、新たな仲間に加わるのである。(2匹目)

出会いは、唐突であった。それは、とある工場の近くで起きた。アフラ・マズダーとその側近の3匹は、ナワバリのパトロールをしていた。(夜間に)

先に声をかけたのは、アフラ・マズダーの方だった。工場の草の茂みに隠れていたフランクリンを天仙娘娘と共に発見した。

愛は寛容であり…

富田 一夫

加齢による衰えは隠せないものです。耳が遠くなり、目も遠くなります。しかし、トイレは近くなります。歩くのも遅くなり、一つひとつの動作が遅くなります。ですが、朝の目覚めは早いです。人の名前が覚えられません、物事一つひとつが覚えられません。ですが、忘れるのは一瞬です。瓶詰のキャップが開けられません。足腰が弱くなり、筋力が弱くなります。一方、「我」は強くなります。

年齢とともに、衰えを感じる分、心や感情は円熟し豊かになればいいのですが、そうもいかないようです。ちょっとしたことで、妻に強く当たったりしてしまいます。そんなときに、冒頭の言葉が浮かぶのですが、素直に謝れません。

年齢を重ねるにつれ、心は豊かに、いつも穏やかで、配慮ができる人でありたいと思うのですが、願いどおりにはいかないものです。心の成長は、難しいものですが、これも今の「私」と受け入れております。

“お互いに親切にし、心の優しい人となり・・・” エペソ 4：32

ピパとともに、成長

小川 緩子

ピパが開所して2026年で10年になります。あっという間の10年でもあり、とても濃密な時間の10年だったと振り返ります。

この10年の間、たくさんの利用者さんや職員とピパでの生活をともに過ごしてきました。その時間は一人一人を元気に励ましてくれるようなとても温かい大変貴重な時間です。

2023年に共生型生活介護として、新たなスタートを切り、さらにピパをご利用くださる利用者さんの幅が広がり、家族のような温かい輪は今も広がり続けています。

共生型生活介護としてスタートするきっかけとなったのは、もともとデイサービスに通所して下さる利用者さんや利用者さんご家族からの要望でした。

「小川さん、デイサービスに私が行くと娘がひとりぼっちで家に留守番せなあかんようになるから、今日はデイサービス休んでいいかな？ ピパは楽しいから、娘と一緒に通えたらいい事ないのにな・・・。」利用者さんの娘さんにはハンディがありました。

何気ない日常会話の中から生まれた要望でしたが、とても心に響いた事は忘れもしません。それから2年後に、利用者さんの要望が実現し、娘さんと一緒にピパに来てくださった時は本当に感無量でした。

毎日の何気ない会話から生まれるチャレンジは、まだまだ続きます。そしてピパでの日常がほんとに安心できるような優しい時間と空間で、いつまでも利用者さんに届けられたらと思う気持ちは10年前から、これからも変わらないの願いであります。

余談ですがピパに入職したとき2歳だった息子も、もう12歳！ 私もあっという間にこんなに年を重ねたのかと老化に驚きつつ……。最後になりましたが、いつもピパを支えて下さる皆さんに本当に感謝の気持ちしかありません。心から有難うございます。

開所から10年を迎えるピパ、これからも末永くどうぞよろしくお願いいたします。

「言葉という音」

かつおぶし

1 思いを伝えること

「言葉という音」で伝えること
動きめくる筆で書いて思いを伝えうること
その手紙・・・
いつか いつか
その伝えることが難しいと思うことが
「待つ」という動作で
春が来る予感がするということ やがて
ストーリー 生まれ 生まれ
一人で苦節 そして出会い
そして恋せどいなや
ストーリーに変わり
愛し 愛し
一人目覚め そして出会い
筆 そうだ！このすべてを託して
手紙とはいえず いつか いつか
「言葉という音」で伝えられたら
感じ合う二人になるだろう
さながら

2 思いを伝えること

「言葉という音」で流れゆくこと
象形の絵文字で思いを伝えうること
その壁画・・・
いつか いつか
その伝えることが難しいと思うことが
「待つ」という動作で
春が来る予感がするということ やがて
ストーリー 育ち 育ち
一人で苦悩 そして出会い
そして恋せどいなや
ストーリーに変わり
恋し 恋し
一人目覚め そして出会い
ペン そうだ！このすべてを託して
壁画の文字とはいえず いつか いつか
「言葉という音」で伝えられたら
感じ合う二人になるだろう
さながら

たからもの

金 安奈

「私も生活保護を受けるという大変な決断をしたけれど、安奈さんも働くという大変な決断をしたのですね。」

自身の決断が揺らぐとき、くり返し、くり返し、思い返しては、私に刻まれる大切な言葉。ありのままを肯定し合う関係。社会福祉法人サワリの現場とそのつながりの中で私はいつも自分の確かさをくださる存在に囲まれています。役割の違いにかかわらず、「人として」揺らぎなく向き合い、受け止めてくださる皆様に感謝しています。

波に飲み込まれたときに行きついたところがあります。人生に最低も最高もないということです。尽きる底もなければ、尽きる頂点もない幸せ、感謝の気持ち。私は、精神の病気になって良かったとは言いきることはできません。けれど、経験が自分の糧になっているし、自分の中に新たな意味がもたらされたことを否定しきれないと思っています。それは、最高とも最低とも価値づけることはできない私の人生なのです。

私は、精神の病気の波なのか、人として当然の波なのか悩むことがあります。精神の病気の症状の悪化に対する恐怖心が強すぎるために、悩んでしまうことが多いです。けれど、その境界線をつけることが必要かを考えると、なぜそこで悩むのか、悩む必要があるのかを見失って、そのことに苦しんでいるというところがあって、感じ包まれる苦しみから抜け出たくて考えているつもりが、その考えが自分を苦しめていたのです。苦しみを自分で増やしてしまっていた。苦悩するところから解放された瞬間でした。

自分が自分で良しとできる瞬間を生きること
身を任せて、揺らぐ
すべてが生きている確かさになってゆく
そう信じて、感じるままに波をゆく

Watashi no Kimochi わたしのきもち

Q) 先ずは自己紹介をお願いします。

M・K) 名前はポケットに通所しているM・Kです。

Q) ポケットを知るキッカケは何ですか？

M・K) 北区の社会福祉協議会でいくつかの事業所を紹介されました。

そこでポケットという作業所を知るきっかけになりました。ポケットに通所するのを決めたのは居住地から一番近かったからです。

Q) 話は変わって、趣味についてお話し下さい。

M・K) 趣味は特にありません。

Q) 余暇の過ごし方等をお聞かせください。

M・K) 趣味がないので、テレビを観るくらいが余暇の過ごし方です。

Q) ポケットで新たにやってみたいこととか有りますか？

M・K) ポケットに通所して日が浅いので、今は、「つまみ細工」で精一杯です。

Q) ポケットに通っていて良いところ、改善してほしいところ、期待、希望などが有ったらお聞かせください。

M・K) ポケットに通所して良いところは、引きこもりがなくなり、外に出るきっかけになりました。それで体力的にも力がついてきて良かったです。本当にこのような場所が見つかって良かったです。だから、このような場所をなくさないように期待しています。

Q) 今回のエクレーシアで、伝えたいこと、知ってもらいたいこと等、ありますか？

M・K) 前の質問でも答えましたが、本当に引きこもりが解消されたことを一番に伝えたいし、知ってもらいたいです。

Q) 病気の回復のためにしていることがあれば聞かせて下さいますか？

．．．．．

M・K) 仕事に行くと思って、ポケットに通所しているところです。

Q) 最後に、今、そしてこれから取り組んでいけそうなことなど、考えがあったらお聞かせください。

M・K) お花に興味があるので、将来、花を用いた授産品づくりに関係できたらと考えています。だから、教えていただくチャンスが欲しいです。

全国からの寄付

【寄付】

(大阪) 文宗雄 青木雅俊・玲子 詠田三郎 栗倉保夫 辻伯夫 都木恵子 吉川浩 李昌秀
崔金順 イオンスタイル新金岡 在日大韓基督教会大阪教会女性会
(兵庫) 高クリニック:高光重
(滋賀) 井田泉
(長野) 中部地方会女性連合会
(神奈川) 郭鐘洙 片山禎二 池迫直人 平塚中原教会
(東京) 中村邦介 在日大韓基督教会
(福岡) 崔正剛 有限会社アプロ:柳在旺 在日大韓基督教会折尾教会

匿名 1 名

【寄贈】

小原尚子 大舌明美 横山知早子 原田多恵子 清水 八柄 株式会社海龍

匿名 1 名

順不同・敬称略

編集後記・お知らせ

○全国の皆様に様々な形で支えていただき、心より感謝申し上げます。

※発送先の変更、訂正などありましたらご連絡くださいますようお願いいたします。

※おことわり:原稿を書いた人のありのままを伝えたいので、出来るだけ本人の書いたまま掲載しております。